

エルムの加藤修滋さん音楽活動50年記念

# 華やか名古屋巴里祭2020 ゲストに菅原洋一氏



毎夏恒例の「名古屋巴里祭」が7月23日夕、名古屋市中区のホテル名古屋キャッスル「天守の間」で「音楽活動50周年記念加藤修滋ディナーショー」として催された。会場はコロナ禍の「三密対策」でテーブルや隣席との間隔を十分に施して開かれ、約200人が「加藤ファミリー」のメンバーやゲストの菅原洋一さんらによるライブの夕べを楽しんだ。

名古屋市千種区でシャンソニエ「カフェ・コンサート・エルム」を運営する日仏シャンソン協会日本支局長のピアニスト・加藤さんが毎年開いているパリ祭。今年は1968年に東海ラジオの民放祭参加番組で音楽担当を務めてから半世紀に及ぶ音楽活動を記念するディナーショーとして開催した。

ともに名古屋を拠点に活躍する女性シャンソ

ン・ピアニスト若山しのぶさんと、アルパ（インディアン・ハーブ）奏者の牧野将典さんの演奏でセレモニーが開幕。来賓の愛知芸術文化センター総長の神田真秋さんが挨拶で「ライブの灯火を消さないという加藤さんの音楽活動にこれからも期待したい」とエール。CBCテレビの林尚樹副会長も「コロナ禍で改めて音楽などが人の心を豊かにする役割を知った。加藤さんにはこれからも若手を育て世界に発信してほしい」と乾杯の挨拶をした。

続いて、加藤さんを師事して音楽活動を続ける青山桂子、岡山加代子、宮入公子、芹沢祥子の4人そろい踏みでおなじみ、エルムのテーマ曲「あなたが好きでたまらない」を歌ってディナーショーに移った。加藤さんのピアノと歌でシャンソン「5月22日のシャルルの為に」からスタート。タンゴの名曲「カミニート」や「百万本のバラ」などを次々と披露。曲間には50年を振り返るように母ハツさんへの思い出話

